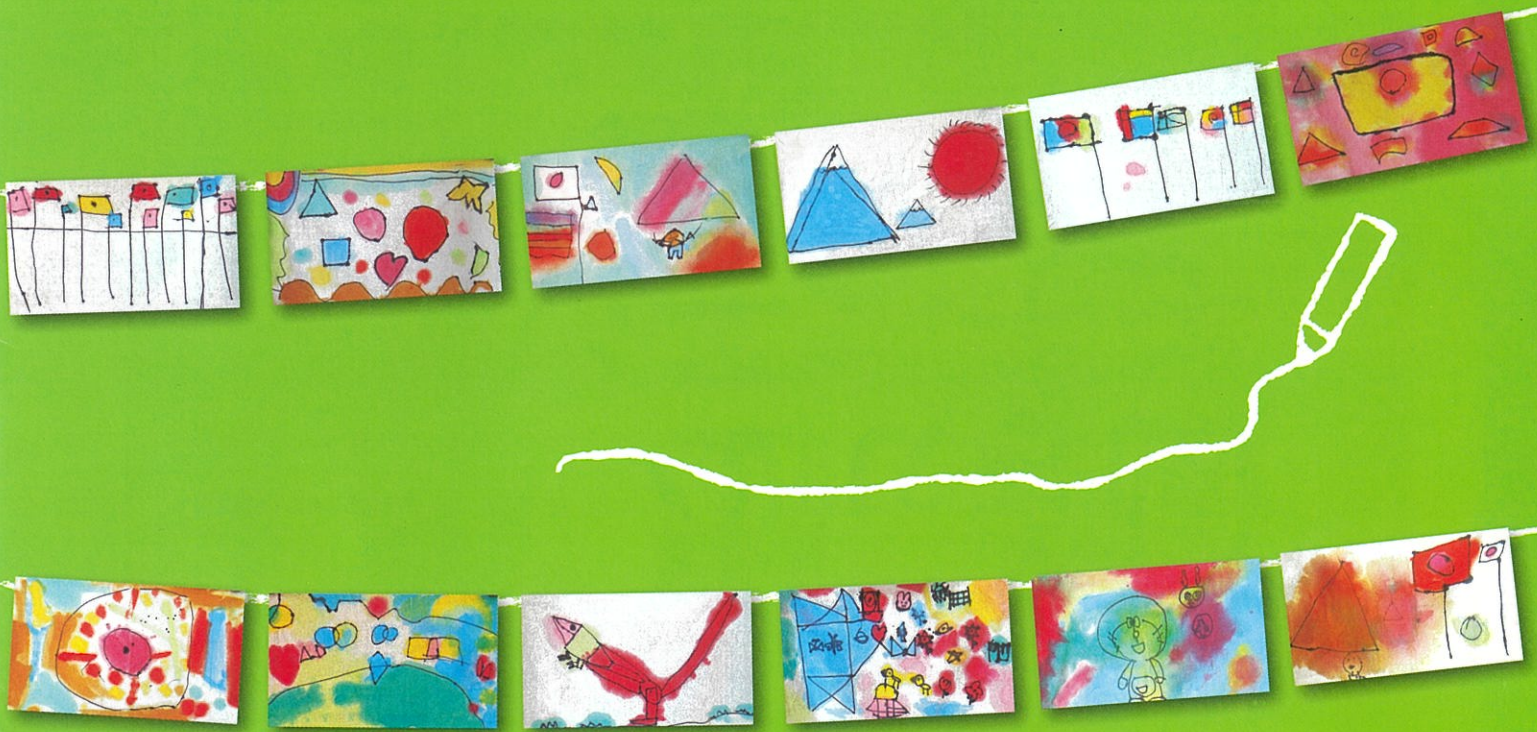


国立大学附属幼稚園からの提案 11

遊びや生活を通して 思考力を育む



平成28年3月
全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

発刊にあたって

全国の国立大学附属幼稚園における研究の現状を紹介するため、毎年発刊してまいりましたリーフレットは、本号で11号を数えます。本号は、「遊びや生活を通して思考力を育む」というテーマのもと、6園の事例研究を掲載し、これをふまえた今後の幼児教育のあり方への提案をおこなっています。

幼稚園における遊びや生活は、子どもたちの生活の一部に過ぎないとはいえ、家庭や地域では得がたい要素を含んでいます。同学年、異学年の子どもたちや教師とのかかわり、幼稚園に点在するたくさんのモノや動植物とのかかわり、これらすべてを含む環境とのかかわり、そうした豊かなかかわりのなかで、子どもたちの心と体が育まれ、経験が蓄積されていきます。そして経験の蓄積は、さらなる好奇心や探究心、創造的な力を育む土壌となっていくのです。本リーフレットには、「おもしろい」「もっとやりたい」「どうしてうまくいかないんだろう」……こうした子どもたちの心の動きを、論理的な思考力の芽生えとして大切に育んでいくための、多くの保育実践のヒントが含まれています。全国の幼児教育関係者のみなさまに、広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、事例をご紹介くださいました6つの園のみなさま、そして示唆に富むコラムを寄せてくださった白梅学園大学教授・無藤隆先生に心よりお礼申し上げます。

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

会長 藤崎 宏子

目次

発刊にあたって	2	
「遊びや生活を通して思考力を育む」について	3	
記載事例		
異年齢の友達とのかかわりで育む思考力	奈良女子大学附属幼稚園	4
子どもの「かしこさ」を育てる保育	埼玉大学教育学部附属幼稚園	5
モノと向き合い、遊び込む中で育つ思考力	滋賀大学教育学部附属幼稚園	6
生き物と共に育つ保育のあり方—幼児の“気づき”に着目して—	京都教育大学附属幼稚園	7
試行錯誤する子どもと教師	東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎	8
論理的な思考力の芽生えをはぐくむ～色水遊びを中心として～	鳥取大学附属幼稚園	9
コラム		
遊びや生活を通して思考力を育む	10	
全国国立大学附属幼稚園平成28年度研究テーマ一覧	11	

「遊びや生活を通して思考力を育む」について

幼児期の思考力は、様々な事物や事象との出会いをきっかけに芽生えてきます。自然や身近にあるもの、遊具、用具に触れることで好奇心や探究心が生まれ、そうして生まれたイメージの世界を、子どもたちは多様な形で表現していくのです。

もちろん、幼稚園で育まれる思考力は、そこにとどまるわけではありません。仲間とともに自然や事象に向き合う生活を通して、子どもたちは時間をかけて、探究しあい、考えあう共同体へと育っていくのです。

こうした形で展開される保育実践の姿を、「遊びや生活を通して思考力を育む」というテーマでまとめてみました。国立大学附属幼稚園の取り組みから提案いたします。

記載事例の概要

異年齢の友達とのかかわりで育む思考力

- 異年齢の友達との直接的・間接的なかかわりから、「相手の立場に立って推理する」「まねる」「異文化を受容し理解する」「向社会的態度を認識する」思考力が育まれる
- 異年齢の友達とのかかわりを教育環境として教師が意識し構成する視点として、「友達との継続した関係」「視覚的な場の構成」「生活を共にし、通常保育とリンク」が挙げられる
(奈良女子大学附属幼稚園)

子どもの「かしこさ」を育てる保育

- 幼児の「かしこさ」と「やさしさ」「たくましさ」との関連
- 幼稚園教育要領をふまえた実践（考える過程、友達と共に考える力、体験の多様性と関連性など）
- 自分のためだけでなく、人のために「かしこさ」を使えるような育ち
(埼玉大学教育学部附属幼稚園)

モノと向き合い、遊び込む中で育つ思考力

- 幼児がモノと出会い、心が動く姿や過程の見取り
- 幼児がモノと向き合い、「遊び込む」という姿を「発見から思考へ」、「経験の積み重ねから思考へ」、というような視点で捉えている保育実践
- 幼児が主体的に遊び思考力を促すために、幼児にとって意味のあるモノや活動を精選していく環境構成と援助のポイント
(滋賀大学教育学部附属幼稚園)



生き物と共に育つ保育のあり方 —幼児の“気づき”に着目して—

- 生き物とのかかわりで幼児に育つものを考える研究の2年次。1年次に「心情」と「思考」が共に育つことが明らかとなったことから、2年次には「思考」に着目
- 生き物とかがわる場面を通して、“気づき”に着目し、その“気づき”から始まる「思考」のプロセスの読み取り
- 各年齢における特徴的な「思考」プロセス及び、「(個人内での)生き物との対話」から生まれる思考の過程と「他者とのやりとり」から生まれる思考の過程の整理
(京都教育大学附属幼稚園)

試行錯誤する子どもと教師

- 幼児が試行錯誤する姿を、「扱う」「試す」「工夫する」「挑戦する」の4つ視点でとらえ、エピソードとして抽出
- 抽出したエピソードを、幼児の内面の変化、幼児の学び（対象についての学び、対象へのかかわり方についての学び、対象とかがわる自分についての学び）の視点で考察
- 試行錯誤の背景にある認知、非認知的発達、家庭環境を測定
(東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎)

論理的な思考力の芽生えをはぐくむ

- 入園から修了までの3年間を通して広がり深まる思考力の芽生え
- 直接体験の中で心が動くようなものやこととの出会い、友だちの存在の重要性
- 幼児の気付きや好奇心などを引き出し、試したり繰り返したりできる環境の構成と発達に応じた教師の援助
(鳥取大学附属幼稚園)

異年齢の友達とのかかわりで育む思考力

異年齢の友達とのかかわりで育まれるものといえば、「思いやり」や「憧れ」等向社会性を思い浮かべることも多いが、実は異年齢の友達とのかかわりで子ども達が得ているものは多様である。その中でも、異年齢という「異文化」を体験することで育んでいる「思考力」とはどのようなものだろうか。

本園の教育は、通常は同学年での学級編成であり、子どもが主体的、持続的に対象とのかかわりを展開していく「自由選択活動」と、その土台となる共通経験活動や協同活動などを含む「学級全体活動」で構成している。その中で、本園で捉えた異年齢の友達とのかかわりで育む思考力と、異年齢の友達とのかかわりを教育環境として教師が意識し構成する視点は以下の図のように示すことができる。

相手の立場に立って推理する



まねる



「思考力」の
育ち

異文化を受容し理解する



向社会的態度を認識する



環境構成の視点

友達との継続した関係



親しみが深まり
相手を見る視点も定まる

視覚的な場の構成



情動を揺さぶる環境

生活を共にし、
通常保育とリンク

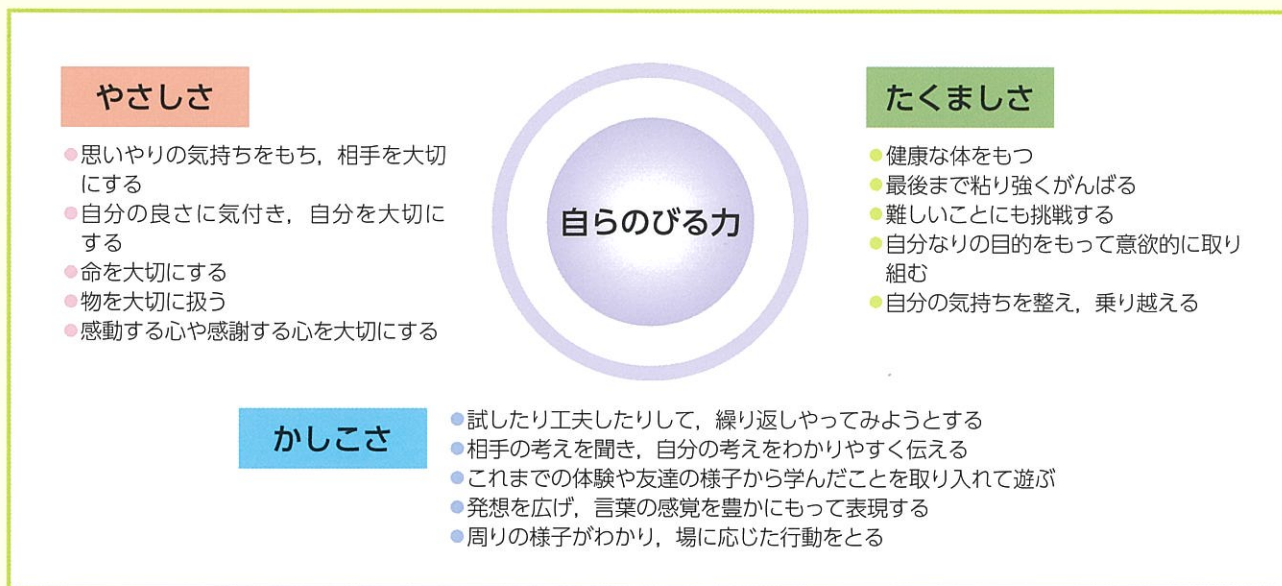


気づきを多様に

奈良女子大学附属幼稚園 〒631-0036 奈良市学園北1丁目16-14
電話：0742-45-7261 FAX：0742-40-2161 Eメール：fuyo-admin@cc.nara-wu.ac.jp

子どもの「かしこさ」を育てる保育

本園では「子どもの自らのびる力を育てる」を教育目標として、保育実践と研究を積み重ねてきた。平成27年度は、この目標について改めて教員相互に見直す機会をもち、教育目標に続く具体的な目標を「子どものやさしさを育てる」「子どものかしこさを育てる」「子どものたくましさを育てる」の3つとした。子どものかしこさについて、やさしさとたくましさとの関連をふまえながら、考えている。



考える過程 自分なりに考えることができるようになる過程を大切に
する

友達と共に考える力 他の幼児の考えなどに触れ、自ら考えようとする
気持ちが育つようにする

体験の多様性と関連性 様々な活動を提供すればよいというのではなく、
体験の質を意識していく

事物への感覚 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、
物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする

幼稚園教育要領では…

自分のためだけでなく、人のために
かしこさを使えるような育ちを

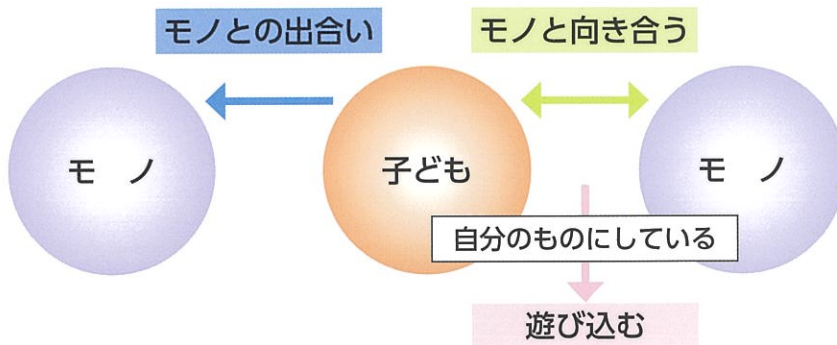
子どものかしこさにかかわる事例

3 歳児	<p>自分のイメージを伝える 【花火大会ごっこチケット】</p>	<p>風で揚がることを体感する 【ビニール袋の凧揚げ】</p>
4 歳児	<p>イメージしたものを作るために 試行錯誤する【色水作り・氷作り】</p>	<p>見通しをもって空間を捉える 【遊びの場作り】</p>
5 歳児	<p>同量にする方法を見つけ出す 【コップの注ぎ分け】</p>	<p>様々な体験を基に表現を作り出す 【クラスみんなでの劇活動】</p>

モノと向き合い、遊び込む中で育つ思考力

幼児が園の環境の中で出会う「モノ」が、一人一人にとって意味のある「モノ」であるか、また、その「モノ」と幼児が「向き合う」とは、どのような姿かということを経験しながら、幼児と保育を創造していく中で、「遊び込む」という姿に着目した。このような幼児の「遊び込む」中に様々な思考力が芽生えていたり、育まれていたりすることを見いだすことができる。幼児が思考していると思われる姿をそれぞれの教師がどう捉え、環境構成や援助をしていくかを考える。

モノとの出会いから思考力の育ちのイメージ



<5歳児6月(ゼリーやさん)の事例より>

●発見(気づき)から思考へ

「こんなにプニプニになった！」と自分がやってみたことの表れに心を動かし、側にいる友達に触ってもらっている。「じゃあ液をちょっとにしたらトロトロになるかな」と予想してまた作り始める。

●経験の積み重ねから思考へ

スライムを作る色の液がなくなった時、先生にもらいに行くか、どうするかという話になる。しばらくしてA児が「いいこと考えた！」と花を取りに行き、色水を作り始めた。



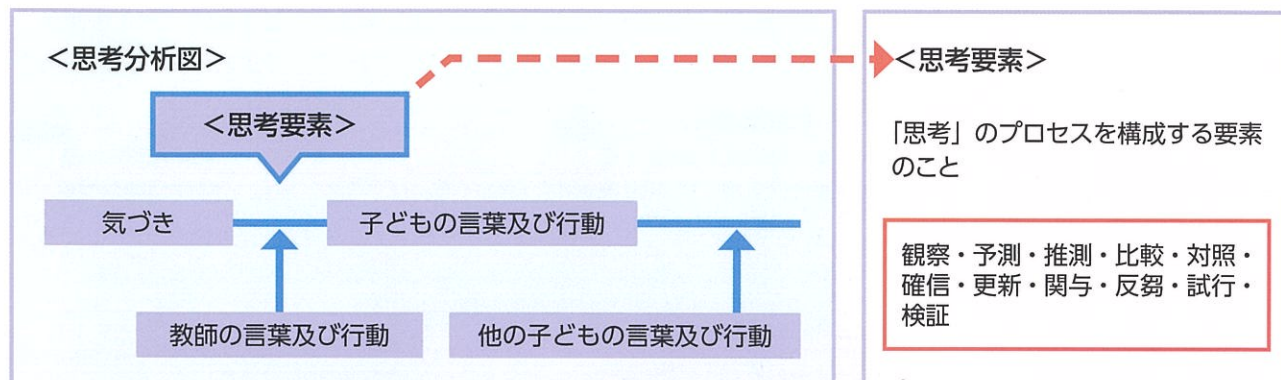
思考力を育むための発達に応じた環境の構成や援助のポイント

	素材等の精選	場の作り方, 再構成	主たるモノとそれを活かすためのモノとの関係	継続, 思考を生み出すための教師の援助
3歳児	感触を楽しめるもの 繰り返しできるもの	教師がゆったりと見守っていく姿勢, 雰囲気を出し出す	<ul style="list-style-type: none"> 遊びながら使い方, 遊び方を知っていくとともに, かかわり方への広がり保障していく 幼児の発達にとって意味のあるモノを考えつつ, 幼児が見つけてきたモノを活かしていく 	幼児が発信したいと思う時に応えたり, 楽しみ方に共感したりする
4歳児	可塑性のあるもの 扱いやすいもの	それぞれの遊びの様子に応じて教師と一緒に場をつくっていく		幼児の発信を受け止め, 一緒に考えながら言葉にして返していく
5歳児	必要な材料・用具を幼児が考え, 選んでいけるもの	どうしたらもっと面白くできるかを考える状況をつくる		友達のしていることを取り入れたら, 認め合ったりする姿をつないでいく

滋賀大学教育学部附属幼稚園 〒520-0817 滋賀県大津市昭和町10-3
 電話: 077-527-5257 FAX: 077-527-5262 Eメール: shiga-fuyou@edu.shiga-u.ac.jp

生き物と共に育つ保育のあり方—幼児の“気づき”に着目して—

幼児が生き物とかかわる中で様々な経験をしている。その中で生き物とのかかわりにおける「思考」の発達過程を捉えることを試みたいと考えた。そこで本研究では、生き物とかかわる中で幼児の「気づき」の場面に着目して、事例を「思考分析図」をもとに丁寧に読み取ることを通して、生き物とかかわる中で幼児の「思考」の発達過程を捉えた。



<各年齢の特徴>

3 歳児

生き物に**積極的に**かかわり直接体験を通して、**生き物に愛着をもち、よく見る**ようになることが、3歳児の思考の根幹になる。

4 歳児

先生や友だちとのやりとりの中で、他者の気づきや考えに出会うと、自分の中に取り入れ**反芻**し、消化することで、自分の**考えを吟味**する。

5 歳児

過去の経験や情報を活用して、**予測・推測**し、それらが正しいどうかを**検証**する。また、“一人”の気づきが他者と多層に重ね合わされ、新たな知識や情報が**他児と共有**される。

<見えてきたこと> 2つの視点から見た子どもの発達過程

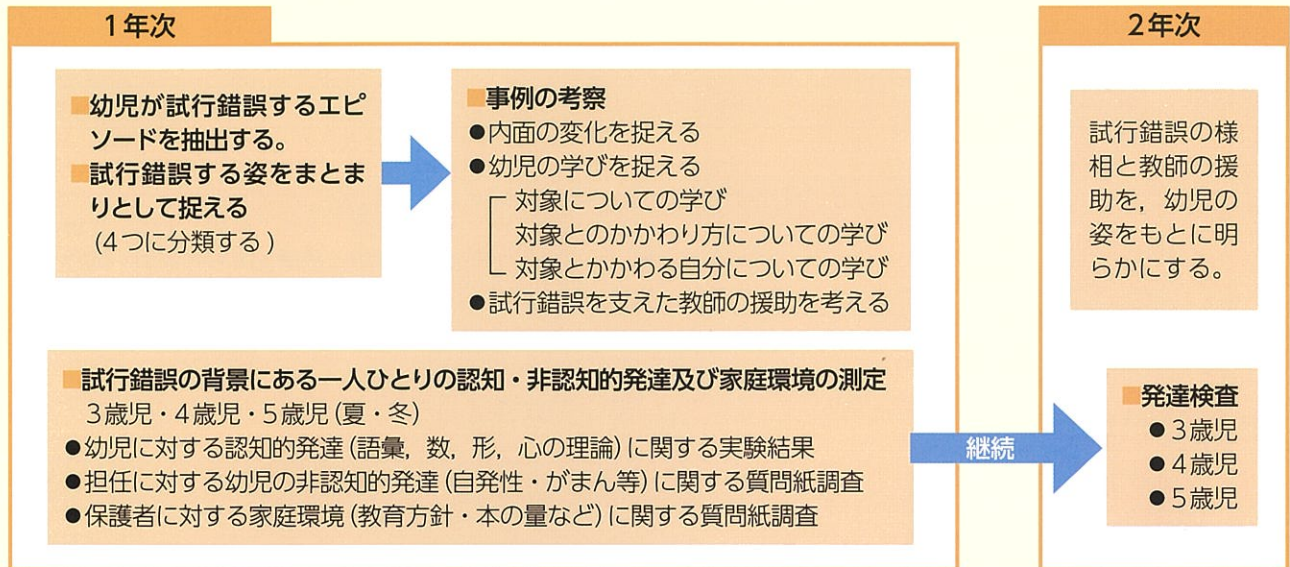
視点	年齢	3 歳児	4 歳児	5 歳児
生き物との対話から		<ul style="list-style-type: none"> • 生き物に積極的にかかわる • 愛着をもってかかわり様々な感情体験をする • 生き物の様子をよく見る • 生き物に自己の経験を重ねて比較し、推測したり予測したりする 	<ul style="list-style-type: none"> • 経験や見聞きしたことから、自分なりの考えをもつ • 自分なりの考えから予測、推測、試行しようとする 	<ul style="list-style-type: none"> • 既存の知識を活用し予測、推測する。またそれを検証しようとする • 気づき→検証→更新のサイクルがより深まる
他者とのやりとりから		<ul style="list-style-type: none"> • 教師の言葉を聞き情報を得る • 教師とのやりとりを交わし、情報を広げる • 教師と他児のやりとりを聞いて情報を得る • 他児の話に同調し、情報を広げる 	<ul style="list-style-type: none"> • 新たな視点を得る • 他者とのやりとりを通して、他者からの情報を反芻し、自分の考えを吟味する 	<ul style="list-style-type: none"> • 気づきが他児へも広がる • 思考が重なる • 他児との知識の共有する

京都教育大学附属幼稚園 〒612-0071 京都府京都市伏見区桃山井伊掃部東町16
 電話：075-601-0307 FAX：075-611-3452 Eメール：yochien@kyokyo-u.ac.jp

試行錯誤する子どもと教師

試行錯誤する姿を大切にしたい

幼児が遊びの中で様々なものや人に出会いながら、繰り返し扱ったり試したり工夫したりする姿は、幼児の思考力を育むための土台として大切にしたい姿である。私たちは幼児が試行錯誤しながら遊ぶ姿を読み取りながら、幼児に起きている内面の変化や学び、教師の援助を考察していきたいと考えた。幼児の試行錯誤する様相を捉えていくことにする。




試行錯誤する姿をまとめりとして捉える (4つに分類する)

集中する


扱う

なんだろう
水を様々な容器を使ってじょうごに注ぎ、いっぱいにしてしようとする事例 (3歳児)




試す

こうするとどうなるかな
友達と2人で木の棒を並べ替えることを楽しむ事例 (4歳児)




工夫する

こういうやりかたもできるかな
遠足で楽しかったことを身近なもので再現する事例 (5歳児)



挑戦する

いまはまだできないけど
修了式に向けて出し物のコツを友達に伝える事例 (5歳児)



分類の定義を考える

	欲求・目的	変化の意図性	自覚レベル
扱う	行為自体が目的	対象に合わせて自分が変わる (受動的)	できない自分の自覚なし
試す			
工夫する	行為は欲求や目的を満たすための手段	自分の意思で対象を操作する (能動的)	できない自分の自覚あり
挑戦する			

論理的な思考力の芽生えをはぐくむ～色水遊びを中心として～

本園では、子どもが自ら遊びを見つけ、試行錯誤し、遊びを深める中で様々な経験をするを大切にしている。また、人やものとのかかわりを通して、様々な感情体験をすること、すなわち「心が動く」体験を通して遊びは充実していくと考えている。幼児期の子どもにとって遊びは学びである。子どもが興味・関心・意欲をもって自ら環境に働きかけたり、環境から刺激を受けたりして遊びが生まれ、好奇心や探究心、気づき、工夫などをはじめ多くの学びが生まれる。

本研究では、実践事例として色水遊びを取り上げ、その中で、3歳児、4歳児、5歳児の子どもの姿と論理的な思考力の芽生えについてキーワードでまとめていくことにした。

■：子どもの姿に関するキーワード

■：論理的な思考力の芽生えに関するキーワード

援助：保育者の援助

3歳児



1年間繰り返し体験をする中で

安心感の中で 素材を楽しむ 実感する たのしい、おもしろい 繰り返し遊ぶ

花の色と色水の色の関係に気づく 雪も色が染まる

援助：遊ぶ時間の確保、子どもの思いに寄り添う

4歳児



新たな気づきの場面で

友だちと一緒に やり方、様子を見て 今までの経験と比べて 再び試して 発見に
おもしろさを感じて

比較する 今までの経験から考える 自分なりの理由を自分なりの言葉で表現 事柄の関係性の気づき

援助：友だちと比べたり見せ合ったりするような言葉かけ、一緒に共感し試す

5歳児



経験を積み重ねるうちに

こだわりをもって 組み合わせを考えて 明確な目的をもって 経験をいかして

対比の考え方 自分なりの因果関係の説明 予想する 順序だてて説明する

援助：漠然と感じている気づきを言葉で表すことができるための言葉かけ
新たな環境や遊び方の提案

まとめ

- 幼児期の論理的な思考力には、「自分なりの」という特徴がある。自分なりに考える楽しさや面白さを味わうことで、好奇心や探究心、自ら考えようとする力が育つ。
- 直接体験の中で心が動くようなものやことなどに会うことが、論理的な思考力が芽生えるきっかけとなり、人のかかわりの中で育つ。

保育者の援助や環境の構成について

- 子どもの今、育とうとしている力、何を学んでいるかを保育者が見取り、見守るのか、どのような言葉をかけるのかなどの援助を考える保育者の感性や、子どもの論理的な芽生えと成長についての見通しをもった援助が必要である。
- 安心して自己発揮し、自分の思いを言葉で伝えようとする必要がある。その中で、子どもの言葉の力を高めるために、どのように受けとめ返していくかが保育者の課題である。

鳥取大学附属幼稚園 〒680-0941 鳥取県鳥取市湖山町北2丁目465
電話：0857-28-0010 FAX：0857-31-3321 Eメール：fuyou@fuzoku.tottori-u.ac.jp

遊びや生活を通して思考力を育む

白梅学園大学

無藤 隆 先生

幼児は身の回りの環境にある事物に出会いながら、その特徴ある様子を分かっていき、また仲間や保育者とともにその出会いを豊かなものとしていく。思考力が育つとはその過程において出会いを深め、内面化していくことである。思考とは、常に何かについて、そのあり方や自らの関わり方について吟味することだからである。乳幼児期にあって、その何かとは、身の回りの諸感覚を通して関わるることができるものから始まる。

第一が関わる段階である。対象に対して、身体を使い、様々な感覚で感じ取りながら、接触し、働きかけ、手応えを得ることである。その背景には、様々な人々がそういった対象に対して関わっている様子を生活の至る所で見ながら、あこがれるという学びが見られる。それが準備となり、実際の関わりとなる。その関わりが多少とも持続すると集中が生まれる。子どもの心身が没頭し、活性化し、動員され、生き生きとした関係を対象との間に取り結ぶのである。

第二の段階は対象の特定のあり方に対しての焦点化した関わりである。集中に対して距離を取り、全体を見渡し、再考する働きが生まれる。一つは工夫である。工夫とは目的と手段の関係が把握され、目的に合わせて手段を検討し、目的を実現しやすい手立てを選ぶことである。実際にはそこに試行錯誤があり、試しつつ、よりよいやり方を模索し、その模索を通して何を実現したいかという目的そのものも具体的に作られていく。もう一つは気づきが生まれることである。対象となるものの独自の特徴を取り出す。対象への関わりが他の対象との関わりと違うことがあると、それが違うという気づきを生むし、工夫のためには独自のあり方を考慮に入れなければならない。

第三の段階は対話である。工夫と気づきに対して問いかけを生成し、改めて対象について検討を重ねることである。なぜそうなるかを問うとは、独自の対象と現在の状態をよってきた経緯で説明するとか、工夫が望ましい効果を上げたときに、そこでのやり方の詳細を記述するとか、すぐには見えない機構で成り立ちを説明するということである。それは子どもがやってきたことを振り返り、言葉にしたり、他の子どもや保育者と問いかけを共有し、何度もやりとりを重ねることで、考えが深まるのである。

平成28年度 全国国立大学附属幼稚園研究テーマ一覧

平成28年2月現在

幼稚園名	研究テーマ	公開研究会等の期日
1 北海道教育大学 附属旭川幼稚園	体験のつながりから遊びの広がりへ	28.10. 1 (土)
2 北海道教育大学 附属函館幼稚園	円滑な幼小接続カリキュラムの制作(3年次) —造形遊びを中心に—	28.10. 7 (金)
3 弘前大学教育学部 附属幼稚園	幼児期の体づくり	なし
4 岩手大学教育学部 附属幼稚園	豊かな遊びを育む	28.10.15 (土)
5 宮城教育大学 附属幼稚園	子どもが夢中になって遊ぶ環境とその援助 —体を動かして遊ぶ— (2年次)	28.10.19 (水)
6 秋田大学教育文化学部 附属幼稚園	3年保育の教育課程の再考 —友達とのかかわりに着目して—	28. 6.30 (木) 28.11.10 (木)
7 山形大学 附属幼稚園	幼児期に育てたい言葉	28. 6. 8 (水)
8 福島大学 附属幼稚園	「心が動く」「体が動く」子どもを育てる —ひとりひとりのよさを生かした保 育をめざして—	28. 5.27 (金) 28. 5.28 (土)
9 茨城大学教育学部 附属幼稚園	未定	28.11.29 (火)
10 宇都宮大学教育学部 附属幼稚園	豊かな暮らしを創造する幼稚園の環境	28. 6.25 (土)
11 群馬大学教育学部 附属幼稚園	自己肯定感をはぐくむ保育	28. 6. 2 (木) 28.10.22 (土)
12 埼玉大学教育学部 附属幼稚園	教育課程の具現化に向けて(1年次) —子どもの「かしこさ」を育てる保育—	28.11. 9 (水)
13 千葉大学教育学部 附属幼稚園	遊びの物語を読み取る保育者 —3歳から4歳, 4歳から5歳への接続 のあり方を考える—	28.10.22 (土) 29. 2.18 (土)
14 東京学芸大学 附属幼稚園小金井園舎	試行錯誤する子どもと教師(2年次)	28.11.19 (土)
東京学芸大学 附属幼稚園竹早園舎	幼・小・中連携カリキュラムの検証	28.11.12 (土)
15 お茶の水女子大学 附属幼稚園	子どもの内にある感受性を探る	28. 6.24 (金) 29. 2.10 (金)
16 山梨大学教育学部 附属幼稚園	子どもが主体となる保育(3年次) —子どもとつむぐ園生活—	28. 6.25 (土) 28.12. 3 (土)
17 新潟大学教育学部 附属幼稚園	社会的な知性を培う —幼・小・中一貫教育カリキュラム の開発—	28. 5.25 (水)
18 富山大学人間発達科学部 附属幼稚園	子どもの体験を支える —体験が生きる援助のあり方を探る—	28. 6.16 (木)
19 金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属幼稚園	幼児期における学びを探る —生じた課題に対し, 主体的・協同的に学ぶ姿— (アクティブラーニングの視点から)	28. 6.10 (金)
20 福井大学教育学部 附属幼稚園	つながり合って遊ぶ子どもたち	28. 6.18 (土)
21 信州大学教育学部 附属幼稚園	「遊びにうちこむ子ども」を育む教育課程(1年次) —主体的に(もの・人)にかかわり, 手ごたえ を感じながら遊ぶ子どもの姿をみつめて—	28.10.22 (土)
22 上越教育大学 附属幼稚園	遊び込む子ども	28.10. 5 (水)
23 静岡大学教育学部 附属幼稚園	豊かな自然環境を活かした保育	28.11.16 (水)
24 愛知教育大学 附属幼稚園	未定	28.11.10 (木)
25 三重大学教育学部 附属幼稚園	夢中になって遊ぶ姿を支える教師の援助 —体を動かして遊ぶ活動—	29. 1.28 (土)

幼稚園名	研究テーマ	公開研究会等の期日
26 滋賀大学教育学部 附属幼稚園	わくわくの創造 —遊びから生まれる表現活動—	28.11.18 (金)
27 京都教育大学 附属幼稚園	未定	28年11月上旬
28 大阪教育大学 附属幼稚園	主体的に生活する子どもを育むための 教育課程の創造	28.11.26 (土)
29 兵庫教育大学 附属幼稚園	未定	28. 6. 1 (水) 28.12. 3 (土)
30 神戸大学 附属幼稚園	幼稚園と小学校の円滑な接続に資す る, 子どもの学びに着目した, 幼児 教育と小学校教育9年間を一体と してとらえた教育課程の大綱となる 「初等教育要領」の開発	28.11.19 (土)
31 奈良教育大学 附属幼稚園	子どもたちの未来につながる楽しい 保育の追求	28. 5.28 (土)
32 奈良女子大学 附属幼稚園	幼小一貫教育において生活と学習を つなぎ, 同年齢や異年齢で協動的に 探究を深め, 多様な能力や個性的な 才能を引き出す「生活学習力」を育 成する教育課程の研究開発	28.11.19 (土)
33 鳥取大学 附属幼稚園	幼児期の学びをつなぐ —活動とことばに着目して—	28.10.22 (土)
34 島根大学教育学部 附属幼稚園	願いを持ち主体的に遊びを追求する 子どもの育成(仮)	28.11.18 (金)
35 岡山大学教育学部 附属幼稚園	幼稚園教育と小学校教育の接続を図るための幼 児期に生活していくために必要な習慣や学びに 向かう力との関連性の検討を含めた「考える 力」の育成を重視する教育課程及び教育内容・ 指導方法の研究開発	28.11.11 (金)
36 広島大学 附属幼稚園	持続可能な社会の担い手となるために, その基 盤となる態度や資質・能力を明らかにし, 「自 然とのつながり」と「人とのつながり」の直接 体験を通してそれらを育成する幼児期の教育課 程の研究開発	28.10.27 (木)
37 広島大学 附属三原幼稚園	社会的自立の基礎となる資質・能力及び態度・ 価値観の体系的な育成のための, 幼小中一貫の 新領域を核とした自己開発型教育の研究開発	28.12. 2 (金) 28.12. 3 (土)
38 山口大学教育学部 附属幼稚園	友達とかかわる力を育む	28.11.12 (土)
39 鳴門教育大学 附属幼稚園	遊具材から豊かな遊びを創り出すためにⅡ	28.11.19 (土)
40 香川大学教育学部 附属幼稚園	～つながる～子どもたちの生活を支えるⅡ	29. 1.27 (金)
40 香川大学教育学部 附属幼稚園高松園舎	能動性を発揮する教育課程 PART Ⅱ	29. 2. 3 (金)
41 愛媛大学教育学部 附属幼稚園	未定	29. 2. 3 (金)
42 高知大学教育学部 附属幼稚園	よく考えて行動する子どもを育むた めの教育課程・指導計画	29. 2月中 (4月のHPに掲載)
43 福岡教育大学 附属幼稚園	未定	未定
44 佐賀大学教育学部 附属幼稚園	『自然』に支えられた保育	29. 2.19 (日)
45 長崎大学教育学部 附属幼稚園	共感し合いながら友達とかかわり 協同して遊ぶ子どもを目指して —夢中になる姿を追って—	28.11.12 (土)
46 熊本大学教育学部 附属幼稚園	学びをつなぐ教育課程の創造 —遊びこむ子どもから, 自ら学ぶ子どもへ—	28.10.29 (土)
47 大分大学教育学部 附属幼稚園	遊びを通した子どもの学び	28. 11.26 (土)
48 宮崎大学教育学部 附属幼稚園	かかわる力を育てる援助の在り方	29. 2.10 (金)
49 鹿児島大学教育学部 附属幼稚園	遊ぶ子ども, 学ぶ子ども ～幼小接続を意識して～	28.11.18 (金) (保育を語る会)



発行

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

事務局

お茶の水女子大学附属幼稚園
〒112-8610 文京区大塚2-1-1
TEL 03-5978-5881 FAX 03-5978-5882
Eメール ijuin.michiko@ocha.ac.jp